

環境経営レポート

2022年度

(対象期間:2021年12月1日～2022年11月30日)



サカエテクノ株式会社

新潟工場

発行日:2023年7月31日

改訂日:2023年10月31日

目 次

P-2

2021年度

1. 組織の概要 P-3
2. 実施体制図・役割権限表 P-4
3. 環境経営方針 P-5
4. 環境経営中期目標と当期目標・実績・評価 P-6
5. 環境活動計画の具体的な取り組み内容 P-7
6. 環境活動の取り組み結果の状況と評価 P-8
7. 次年度の環境活動取組計画(経営計画)2021年度 P-9
8. 環境関連法規への違反・訴訟の有無 P-10
9. 代表者による見直し結果 P-11

以上

1.組織の概要

1)事業所名及び代表者氏名

サカエテクノ株式会社 新潟工場
工場長 田村友明

(対象期間:2020年12月～2021年11月)

2)所在地

新潟工場:新潟県十日町市上野甲839-2
資材倉庫:新潟県十日町市下平新田

3)環境管理責任者氏名・担当者連絡先

責任者/担当者 田村 英世(製造管理課)
e-mail:hideyo@sakae-techno.co.jp
担当連絡先 田村 英世
e-mail:hideyo@sakae-techno.co.jp
連絡先 電話025-768-4363

4)事業活動の概要

異型金型押出し成形(プラスチック押出し成形)及び付帯する加工

5)事業の規模

売上高:219百万円(2022年度) 新潟工場のみ

従業員数	9名
延べ床面積(工場)	280㎡
延べ床面積(資材倉庫)	132㎡

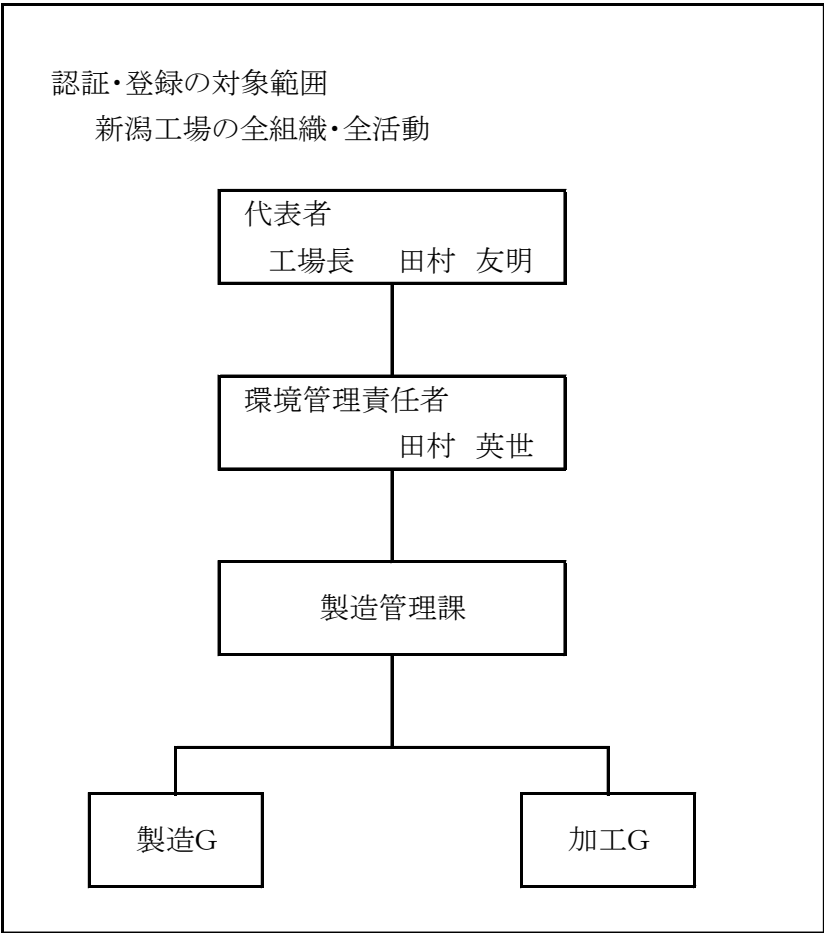
事業年度

12月～11月(環境活動も同じ)

6)対象範囲(認証・登録の範囲)

新潟工場は全組織・全活動を対象としている。全社(本社と九州工場)へ4年以内の段階的認証拡大は難しい状況と判断し新潟工場のみをサイト認証することを中央事務局へ要望したが、かなわなかった。

2.実施体制図・役割権限表



	役割・責任・権限
工場長 (品質管理責任者)	・全体統括・環境経営方針の設定。 ・環境への取り組みを実施するための資源の準備。 ・EA21の実行に必要な資源(人・物・金)を用意する。 ・全体の評価の見直し。 ・環境管理責任者を任命。 ・経営における課題とチャンスを明確にする。
環境管理責任者	・全体の把握。 ・環境経営システムを構築・運用し、その状況を代表者へ報告する。 ・環境関連法規等の取りまとめ表を作成・確認、遵守評価して、代表者に報告。 ・環境経営目標の達成状況及び活動計画書の実施状況を確認し、審議する(1回/3ヶ月)。 ・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の確認。 ・エコドライブの推進、廃棄物排出量・適正分別の管理、車両タイヤ空気圧の毎月チェック。 ・EA21の文書及び記録の作成・管理・維持。 ・環境経営レポートの作成・報告・公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

3.環境経営方針

サカエテクノ株式会社・新潟工場

環境経営方針

<基本理念>

サカエテクノ(株)新潟工場は、異型押出メーカーとして、事業活動の全てにおいて環境負荷の低減、環境保全への取り組みを実行する。

<行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。

- ① 電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ② 使用原材料の省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)の推進
- ③ 水資源の節水
- ④ 環境に配慮した製品及びサービスに努めます。
- ⑤ 化学物質の適正管理

これらについて経営における課題とチャンスを踏まえて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

制定日:2011年11月27日
改定日:2020年1月10日
新潟工場工場長
田村友明

4. 環境経営目標と当期目標・実績・評価

環境経営目標	単位	基準年	中期目標				2022年度 (12月～11月)		評価
		2019年度 (45期)	2020年度 (46期)	2021年度 (47期)	2022年度 (48期)	目標	実績		
① 二酸化炭素 排出量削減 (電力のみ)	kg-CO2	177,323	175,550	173,777	172,003	172,003	166,451	○	
	%	－	－1%	－2%	－3%				
②-1 一般廃棄物の削減	kg	710	703	696	689	689	730	×	
	%	－	－1%	－2%	－3%				
②-2 産業廃棄物の削減	kg	21,840	21,622	21,405	21,185	21,185	16,869	○	
	%	－	－1%	－2%	－3%				
③ 水資源の節水 (総排水量の削減)	m³	345	342	338	335	335	328	○	
	%	－	－1%	－2%	－3%				
④環境に配慮した 製品に関する目標 (不良率の削減)	%	10% 以下	10% 以下	10% 以下	10% 以下	10% 以下	8.6%	○	
⑤ 化学物質の 適正管理	確認 回数	6回	6回	6回	6回	6回	6回	○	
(2ヶ月毎に確認)	確認 結果	適合	計画	計画	計画	計画	適合		

購入電力の排出係数:平成28年度東北電力(株)の、実排出係数0.6kg-CO₂/kWhを使用した。
 不良率の削減についてはISO9001による目標管理を採用した。
 次回の中期目標時は東北電力(株)の調整後の排出係数を使用する事とする。
 2022年度の二酸化炭素総排出量は170421kg-CO₂です。

5.環境経営計画の具体的な取り組み内容

環境目標	活動計画内容
① 二酸化炭素 排出量削減 (電力のみ)	空調温度の適性化 未使用時の事務機器電源オフ 未使用設備のスイッチオフ
②-1 一般廃棄物の削減	分別の徹底 帳票の共有化による印刷物の削減 両面コピーの実施 電子機器の利用によるペーパーレス化
②-2 産業廃棄物の削減	作業ミスによる廃棄量の削減 分別の徹底 リサイクル業者の開拓 不良率の改善活動実施
③ 水資源の節水 (総排水量の削減)	節水シールの貼り付けとポスター掲示 節水活動の推進 作業工程の無駄の確認
④環境に配慮した 製品に関する目標 (不良率の削減)	ISO実施手順の運用 品質管理における社内ルール(方針、標準作業書、作業環境、 包装作業、ラベル表示、在庫管理、荷揃え作業、出荷積み込み 時の授受確認、4M変更管理等)
⑤ 化学物質の 適正管理	・PRTR物質の把握 正管理:①所定の位置に保管する ②保管状況の確認 ・適

6.環境経営計画の取り組み結果と評価

環境目標	活動計画の実施状況	評価
① 二酸化炭素 排出量削減 (電力のみ)	CO2の排出量の削減が達成できた。 継続して節電活動を続けてほしい。	○
②-1 一般廃棄物の削減	排出量の削減ができなかった。	×
②-2 産業廃棄物の削減	排出量の削減ができた。 ロス率が上がらないよう日々の生産を慎重に行うようにしたい。	○
③ 水資源の節水 (総排水量の削減)	使用量の削減ができた。 節水活動を継続してほしい。	○
④環境に配慮した 製品に関する目標 (不良率の削減)	不良率の改善活動(ミーティング含む)の充実を行い 不良率の増加にならないようにする。	○
⑤ 化学物質の 適正管理	引き続き適切な管理を行うこと。 (①所定の位置に保管する。②保管状況の確認)	○

7. 2023年度以降の環境経営目標

環境経営目標	単位	基準年	目標			
		2022年度 (48期)	2023年度 (49期)	2024年度 (50期)	2025年度 (51期)	
① 二酸化炭素 排出量削減 (電力のみ)	kg-CO ₂	166,451	164,786	163,122	161,457	
	%	—	-1%	-2%	-3%	
②-1 一般廃棄物の削減	kg	730	723	715	708	
	%	—	-1%	-2%	-3%	
②-2 産業廃棄物の削減	kg	16,869	16,700	16,532	16,363	
	%	—	-1%	-2%	-3%	
③ 水資源の節水 (総排水量の削減)	m ³	328	325	321	318	
	%	—	-1%	-2%	-3%	
④環境に配慮した 製品に関する目標 (不良率の削減)	%	10% 以下	10% 以下	10% 以下	10% 以下	
⑤ 化学物質の 適正管理	確認 回数	6	6	6	6	
		6	6	6	6	

購入電力の排出係数:平成28年度東北電力(株)の、実排出係数0.6kg-CO₂/kWhを使用した。
 不良率の削減についてはISO9001による目標管理を採用した。
 次回の中期目標時は東北電力(株)の調整後の排出係数を使用する事とする。

8.次年度の環境計画取組計画2023年度

環境目標	活動計画内容
① 二酸化炭素 排出量削減 (電力のみ)	空調温度の適性化 未使用時の事務機器電源オフ 未使用設備のスイッチオフ
②-1 一般廃棄物の削減	分別の徹底 帳票の共有化による印刷物の削減 両面コピーの実施及び裏面をメモ用紙として再利用する 電子機器の利用によるペーパーレス化
②-2 産業廃棄物の削減	作業ミスによる廃棄量の削減 分別の徹底 リサイクル業者の開拓 不良率の改善活動実施
③ 水資源の節水 (総排水量の削減)	節水シールの貼り付けとポスター掲示 節水活動の推進 作業工程の無駄の確認
④環境に配慮した 製品に関する目標 (不良率の削減)	ISO実施手順の運用 品質管理における社内ルール(方針、標準作業書、作業環境、 包装作業、ラベル表示、在庫管理、荷揃え作業、出荷積み込み 時の授受確認、4M変更管理等)
⑤ 化学物質の 適正管理	PRTR物質の把握と適正管理

9.環境関連法規への違反・訴訟の有無

① 当社の事業活動に適用される主な環境関連法規制と遵守状況

環境関連法規制及び条例	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	○
自動車リサイクル法	○
フロン排出抑制法	○
家電リサイクル法	○
騒音規制法(指定外地域)	○
十日町市地下水利用適正化に関する条例	○
十日町地域広域事務組合火災予防条例	○
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	○
労働安全衛生法	○
AGC(株) グリーン調達ガイドライン	○
日立GLS(株) REACHの対応とお願い事項	○

② 遵守状況の定期評価の結果、環境関連法規への違反はありません。

関係当局より違反の指摘は、過去3年間ありません。

また、周辺住民からの苦情も無く、訴訟もありません。

10.代表者による見直し結果

(実施日2023年1月20日)

今年度は昨年度より売上高は増加という結果だったが材料費の高騰により製品単価の引き上げによる効果である。

今期の結果を踏まえて来期は稼働状況にもよるが同等もしくは削減できるように日々努めていくように心掛けたい。

事務所の電灯の消灯等、工場内も消灯できる箇所は消灯に努めて可能な限り節電する様、皆で心掛けて電気使用量によるCO2の排出量削減に心がけていきたい。

環境経営方針の変更:無

環境経営目標の変更:有 昨年度の1%削減

環境経営計画の変更:無

実施体制の変更:無

システムの変更:無

以上